

理論家と実務家による官庁統計シンポジウム

理論家と実務家による官庁統計シンポジウムが全国統計協会連合会の主催、総務庁統計局統計基準部等の後援で昭和63年9月9日に東邦生命ホールにて開催され、意見発表とパネルディスカッションが行われた。午前中行われた意見発表のテーマは「国際化の進展と統計——統計による国際比較の可能性と問題点——」であった。意見発表は二部に分かれ、一つは①「人口統計の国際比較について」と題する報告で人口問題研究所長河野稔果が担当し、もう一つは②「統計による国際比較の問題点」で一橋大学経済研究所長溝口敏行教授が報告した。両者は共に統計審議会委員である。

午後はパネルディスカッションで、統計審議会会長篠原三代平氏が座長となり五人のパネリストによってディスカッションが行われた。(河野稔果記)

国連・仙台市共催「都市化と高齢化に関する国連・仙台会議」

国連・仙台市共催、エイジング総合研究センター協力の「都市化と高齢化に関する国連・仙台会議」International Conference on Aging Populations in the Context of Urbanizationが昭和63年9月12日から17日まで仙台市仙台プラザで開催された。議題として、①都市化と人口高齢化の実態的議論、②人口学的側面、③社会経済的問題、④高年者扶助の問題があったが、特に9月15日の老人の日にちなみ「仙台宣言」が起草され、また国連会議として各国政府、各都市に対する勧告が起草され、いずれも満場一致で可決された。

本会議には約60名の学者、行政官、国際機関代表が集まったが、特に注目すべきは13の世界の都市からの代表者がこれに参加したことである。なお全会議を通じての議長に人口問題研究所長河野稔果が選出された。国連を代表して国連人口部長 Jean-Claude Chasteland が出席し、仙台市を代表して市長石川享氏が出席して、それぞれ開会と閉会の挨拶を述べた。

本会議は人口問題に関して日本の地方都市において最初に行われた世界的規模の会議であり、今後世界の高齢者の大半は都市に住み、日本においても都市における高齢化が急速に進行すると予想されるだけに、多くの問題を抱えることは必至であり、その問題を考え対策の討議を先駆的行った意義は大きい。(河野稔果記)

国際人口学会・仙台市共催セミナー “The Family, the Market and the State”

国際人口学会(IUSSP)・仙台市共催セミナーThe Family, the Market and the Stateが仙台市の仙台プラザホテルで昭和63年9月19日から21日の3日間開催された。このセミナーはIUSSP Committee on Economic Consequences of Alternative Demographic Patterns (オーストラリア国立大学 Gavin Jones博士が委員長)が1985-89年間に開催する三つのセミナーの一つとして行われたものである。

このセミナーは29人の経済人口学専門家の出席によって行われた。参加者の中には有名な Ronald D. Lee, Robert Willis, John Ermisch の顔も見えた。日本からは日本大学教授小川直宏氏、東北福祉大学教授谷勝英氏、エイジング総合研究センター専務理事島村史郎氏、人口問題研究所長河野稔果が出席した。河野は冒頭に国際人口学会を代表し開会の辞を述べた。(河野稔果記)